

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
創刊号
2017(平成29)年1月26日
(代表 梅田正之 090-5042-7775)

創刊にあたって — 誌名の由来説明をかねて —

H.A.M.A.木綿庵は、2008年(平成20年)1月26日より活動を開始しました。このたび、設立9周年を記念して、H.A.M.A.木綿庵の活動を記録する機関誌として「うひはたぶみ(初機踏)」を創刊することにしました。

これまで不登校やひきこもり、うつ等でこころがうつむきがちになってしまった方々の居場所づくりとして、畑作業やご相談の受付、綿づくり等に取り組んできましたが、おかげさまで少しずつ活動が知られるようになり、お問い合わせも多くいただくようになってきました。これからも初心を忘れずに、一人でも多くの方に喜んでいただけるよう、晴れの日も、雨の日も、前を向いて歩いていきたいと思えます。

さて、本誌の「うひはたぶみ」という名については、耳慣れない言葉で戸惑われる方が多いことと思えます。この名称は、江戸時代後期の国学者、本居宣長の著作である『うひやまぶみ(初山踏)』をヒントにしています。本居宣長は国学の大成者として、また『古事記伝』、『源氏物語玉の小櫛』などの著者として知られていますが、『うひやまぶみ』は彼の最晩年の作品の一つで、国学入門書と位置づけられている作品です。内容は、初めて国学(古典研究)という未知の山に踏み入ろうとする者への道案内となっています。ただし、そこには国学にとどまらず、新たな世界に踏み入ろうとする者への心強いメッセージが含まれています。

木綿庵では、これまで積み上げてきた綿の栽培、綿繰り、糸紡ぎの上に、いよいよみなさんと一緒に「機織り」の世界へと歩みを進めていくことになりました。この先の限られた時間の中で、どこまでやれるかはわかりませんが、「うひやまぶみ」の精神を忘れず、これまでと同様にコツコツと地道な取り組みを積み重ねていきたいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

以下に『うひやまぶみ』の冒頭部分の一節を引用し、現代語訳の私案をウラ面に掲載します。

…詮ずるところ学問は、ただ年月長く倦まず怠らずして、はげみつとむるぞ肝要にて、学びやうはいかやうにてもよかるべく、さのみかかはるまじきことなり。いかほど学びかたよくても、怠りてつとめざれば功はなし。また、人々の才と不才とによりて、その功いたく異なれども、才、不才は、生まれつきたることなれば、力に及び難し。されど、大抵は不才なる人といへども、怠らずつとめだにすれば、それだけの功はあるものなり。また晩学^{はたお}の人もつとめはげめば、思ひの外、功をなすことあり。また暇^{いとま}のなき人も、思ひの外いとま多き人よりも功をなすものなり。されば、才のともしきや、学ぶ事の晩きや、暇のなきやによりて、思ひくづほれて止むることなかれ。とてもかくてもつとめだにすれば、出来るものと心得べし。すべて思ひくづほるは、学問に大いにきらふ事ぞかし。… (本居宣長『うひやまぶみ』より)



綿繰り、糸紡ぎの作業部屋

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成28年8月26日～平成29年1月25日)

岩手県1、宮城県1、栃木県1、群馬県1、埼玉県3、千葉県3、東京都7、神奈川県2、福井県1、山梨県2、岐阜県2、静岡県2、愛知県8、三重県2、滋賀県3、京都府2、大阪府6、兵庫県1、奈良県2、鳥取県1、島根県1、岡山県1、広島県2、山口県1、徳島県1、愛媛県1、長崎県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成28年8月26日～平成29年1月25日)

メールを含む各種相談件数11、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数9件16名



『うひやまぶみ』冒頭部分の一節

— 現代語訳の私案（梅田訳） —

… 結局のところ、学問[※]というのは、ただひたすら年月をかけて、飽きることなく怠けずに一生懸命努力しつづけるということが大切で、その学び方というのはどのようでもいいのであって、方法ばかりにとらわれないことだ。どんなに学び方が良くても、怠けて努力しなければ成果を挙げることはできない。

また、人には才能のある人、才能のない人があって、それぞれに努力をすればその成果は大きく異なるものようであるけれども、才能があるとか無いとかいうのは生まれつき持って生まれたものなので、個人の方ではどうすることもできないものである。けれども、大抵の場合は、才能が無いと思われるような人であっても、怠けることなく一生懸命努力をすれば、それなりの成果は挙げることができるものである。

また、他の人よりも遅く取り組み始めた人や、年がたってから取り組み始めたような人であっても、一生懸命努力をすれば、案外、大きな成果を挙げることができるものである。また、忙しくて時間がない人も、案外、時間に余裕がたっぷりあるような人よりも素晴らしい成果を挙げることができるのである。だから、自分には才能が無いとか、もう手遅れだとか、時間がないとか勝手な言い訳を自分でつくって、始める前からあきらめてしまうようなことだけは絶対にあってはならない。

とにかく、一生懸命努力さえすれば必ず出来るものだと心得なさい。何事につけても始める前からあきらめてしまったり、はじめてもすぐに途中で投げ出してしまおうようなことは、学問をする上においてはもっとも戒めなければならないことなのである。

※「学問」は、「新たに何かを学び始めること」「新たな世界に踏み入ること」の意に置き換えることができる。

今後の紙面構成について

次号以降は、下記の5項目を中心に構成していく予定です。

- ① H.A.M.A.木綿庵と天理やまのべ木綿庵の活動の記録、②綿の栽培記録、③綿の加工の作業記録、④機織りへの歩み、⑤奈良県における綿作の展開と衰退の歴史の整理。

【1号畑の様子】

昨秋は雨天が多く、綿花の収穫量は例年を下回る。ただし、収穫することのできた綿花の質は良好。中でも8月末～10月初旬の収穫綿の質がもっともすぐれている。ちなみに約1時間で摘むことのできる和綿の実綿量は約1kg。和綿収穫総量は（ ）kg。洋綿の収穫総量は（ ）kg。

11月初旬恒例の「収穫祭」は諸般の事情により中止。綿木引きは12月29日に実施した。

【研修等の記録】

- ・平成29年9月4日「ワークショップ・大和機に迫る」（奈良県立民俗博物館）に参加。
- ・平成29年10月29日「弓浜絋展－弓浜絋と伯州綿－」（JR大阪駅前第3ビルにて）を見学。
- ・平成29年10月30日「相楽木綿伝承館」（京都府相楽郡精華町けいはんな記念公園内）を訪問。
- ・平成29年11月27日「南家織物」（鳥取県境港市外江町）の伝統工芸士：南家敦美氏を訪ねる。
- ・平成29年1月22日「交野市立歴史民俗資料展示室」（大阪府交野市）の機織り教室を見学。



境港市の南家敦美氏を訪ねて



交野市立歴史民俗資料展示室



綿木引きを終えた木綿庵1号畑